

的に解析した。【結果】IVUS では ABA 前後で内腔最大径、内腔面積は大に、プラーク面積は小となったが血管面積に差は無かった。CAG では PTCA 群に比し ABA 群で術後は最小狭窄径は大、狭窄率、recoil は小であった。【結論】ABA の冠動脈拡大機序はプラークの圧縮と考えられた。DCA に ABA を加えることで、PTCA 単独より大きな最小狭窄径が得られ、recoil は少なくなった。

3) 不安定狭心症における責任病変の検出法 —安静時 ^{123}I -BMIPP, ^{201}TI 心筋 シンチ 2 核種同時収集の有用性—

津田 隆志・山口 利夫 (木戸病院
循環器内科)

【目的】不安定狭心症における責任病変は、心電図では確定出来ず、冠動脈造影まで待たざるを得なかった。また多枝病変例の場合、冠動脈造影を行っても判定に困る場合がある。最近、不安定狭心症例に対し、安静時 ^{123}I -BMIPP, ^{201}TI 心筋シンチの 2 核種同時収集を行い、両者の乖離 (mismatch) 部位を責任病変による虚血部位として判定することが可能となった。そこで乖離所見を用いて、不安定狭心症における ① タイプ別 ② 多枝病変例 ③ 心筋梗塞合併例の場合の責任病変検出について検討したので報告する。【対象と方法】冠動脈造影にて責任病変を確認しえた不安定狭心症14例 (男性9例, 女性5例, 平均年齢62歳, 47歳~78歳) で、タイプ別では、増悪型9例, 初発安静時3例, 初発労作性2例であった。多枝病変は10例, 一枝病変2例, 有意狭窄を伴わないスパズム2例であった。陳旧性心筋梗塞合併例は7例で、いずれも増悪型であった。不安定狭心症にて入院後、十分な薬物療法を行い、安静時 ^{123}I -BMIPP, ^{201}TI 心筋シンチの同時収集を行なった。最終発作からシンチ実施まで平均6日 (2日~20日) であり、その後冠動脈造影を施行した。【結果】① 不安定狭心症14例のうち11例で、責任病変の支配領域に乖離を認めた。② 増悪型9例全例で乖離を認めた。初発型では5例中2例 (安静時1例, 労作性1例) に乖離を認めた。③ 多枝病変10例全例, 一枝病変2例中1例で乖離を認めたが、有意狭窄を伴わないスパズム2例共、乖離を認めなかった。④ 陳旧性心筋梗塞合併7例全例, ^{201}TI 心筋シンチで (欠損) 梗塞部位を認め、6例で梗塞部位外、1例で梗塞部位内に乖離を認めた。【結語】不安定狭心症における2核種同時収集は、特に増悪型、多枝病変例、陳旧性心筋梗塞

合併例の責任病変の検出に有用な検査法であった。

4) 感染性心内膜炎における経食道心エコー法の有用性と MIC, MBC について

渡辺 賢一・宮島 静一 (燕労災病院
循環器内科)
草野 頼子
名古屋 洋・樋口 元弥 (同 検査科)

症例は55才, 男性。4週間前から発熱と息切れあり入院。入院時 NYHA III 度の心不全と白血球 $9,700/\text{mm}^3$, CRP 5.31, 赤沈 110 mm/hr, 血液培養で streptococcus sanguis 検出, 心エコー検査で大動脈弁および僧帽弁の穿孔と弁逆流がみられた。ペニシリン G とパニペナム/ベタミプロン (PAPM/BP) の最小殺菌濃度/最小発育阻止濃度 (MBC/MIC) は $12.5/0.05 \mu\text{g}/\text{ml}$ と $0.025/0.025 \mu\text{g}/\text{ml}$ であった。ペニシリン耐性 streptococcus sanguis による活動性感染性心内膜炎と診断し、ペニシリン G と PAPM/BP を投与した。炎症所見が改善し、46病日に大動脈弁と僧帽弁の二弁置換術を施行した。

心エコー検査 (特に経食道心エコー法) は感染性心内膜炎の早期診断, 経過観察のみならず手術時期や術式の選択にも有用である。MBC/MIC の検査はペニシリン耐性菌などの判定に重要である。

5) MAPCA に対するコイル塞栓術の適応に関する検討

—ドブラワイヤを用いて流量を推定して—

佐藤 誠一・竹内 菊博
内山 聖 (新潟大学小児科)
木村 元政 (同 放射線科)
菅原 正明・渡辺 弘
宮村 治男 (同 第二外科)

心内修復術後の心不全の管理を容易にすることを目的に、主要な大動脈肺動脈側副動脈 (MAPCA) に対して、術前にコイル塞栓術を施行する。塞栓術前後での血行動態の変化を、ドブラワイヤを用いて流量を推定することから検討した。

心内修復術の検討を目的に心臓カテーテル検査を施行して、MAPCA が見つかった4症例を対象とした。全例肺血流減少例であり乳児期に BT shunt 等が施行されている。Cardiometrics 社製 FLOMAP SYSTEM Model No. 5500 を使い、ディスポーザブルフロワイヤ $0.018''$ を使用した。得られたドブラ波形から平均流速 (cm/sec) が算出される。一方、2方向シネアングリオカ

ら MAPCA の直径 (mm) を計測し, 平均流速×血管断面積=流量 (l/min) を算出した.

平均流速は 10.7~39.6 (cm/sec) で, 直径は 1.20~3.09 (mm) と計測され, 流量は 7.3~159.1 (ml/min) と算出された. LaFarge らの酵素消費量を用い, Fick の原理から得られた体血流量との比は, 0.56~9.06% であった. コイル塞栓後に動脈血酸素飽和度は平均 4.0% 低下したが, 低酸素の進行により緊急手術が必要となった症例はなかった.

ドブラワイヤの特徴として, 利点: 術前に beating heart で測定可能であり, また保険適応が認められている点, 欠点: 太い MAPCA のみを評価してしまう危険性や, 血管径の判定が困難な場合や, ワイヤの固定が難しく, ガイディングカテーテルの位置により結果にバラツキが生じる危険性, が挙げられた. 今後症例を重ねて, ドブラワイヤによる MAPCA の血流量評価の妥当性を検討する.

果は82手術中80手術 (97.6%) に得られ, 下肢では 63.3% が歩行可能となった. 上肢では 81.7% に, 機能の保持ないし改善が認められ, QOL の面からも患者の満足度は高かった. しかし一方で術後 2 カ月未満の死亡例が 11 例あり, 術前重症度の把握と治療法の選択が極めて重要である.

A-2) マイクロ波による気道内腫瘍凝固術の有効性

渡辺 卓也・村井 政子
山田 聡志・鈴木 善幸
三間 聡・宮尾 浩美 (県立がんセンター)
横山 晶・栗田 雄三 (新潟病院内科)

気道狭窄・閉塞の気道開口には Nd-YAG レーザーによる腫瘍焼却術が主に用いられているが我々は, より簡便で安全性の高いマイクロ波による腫瘍凝固術を行い良好な気道開口が得られた症例を経験したので報告する.

(対象と方法) 対象は 1995 年 6 月以降の甲状腺癌器官浸潤 1 例, 肺癌術後吻合部狭窄 1 例, 気管腫瘍術後吻合部の肉芽形成 1 例の計 4 例. マイクロ波は平和電子工業製 Microtaze (HS-15M) を使用し, needle 型, ball 型内視鏡挿入電極を用いた. 気管支鏡下に 50W, 10 sec の凝固を繰り返し, 1~2 週後, 開口が十分でない場合は同様の手技を繰り返した.

(結果) 甲状腺癌の気管浸潤 1 例に良好な気道開口が得られ, 肺癌術後の吻合部狭窄の 2 例では一過性の効果が得られた. 肺癌による左主気管支の閉塞 1 例では無効であった.

(結論) 予備的検討であるが, 本法は出血, 穿孔の危険性が少なく, 腫瘍の気道狭窄・閉塞の気道開口に有効な手段と考えられた.

第52回新潟癌治療研究会

日 時 平成 8 年 2 月 17 日 (土)
午後 1 時より 6 時 35 分まで
会 場 新潟東映ホテル
2 F 朱鷺の間

I. 一 般 演 題 A

A-1) QOL からみた四肢長管骨転移性腫瘍手術例の検討

大塚 寛・守田 哲郎 (県立がんセンター)
堀田 利雄・平田 泰治 (新潟病院整形外科)
小林 宏人
楊 健 (同 研修医)
(中国黒竜江省省立病院骨科)

癌治療の進歩により延命効果が得られるようになった. しかし, ひとたび骨転移を生じると著しく QOL が障害される. 特に四肢骨転移例は QOL の観点から, 病的骨折および骨折予防目的で手術を要することが多く, 今回これらの治療成績を検討した. 対象症例は 71 例 77 肢 82 手術で原発巣の内訳は肺癌 20 例, 乳癌 17 例, 腎癌 11 例, 胃癌 5 例, 甲状腺 4 例, その他 9 例, 原発不明 5 例であった. 術後生存期間は平均 13.1 カ月で甲状腺癌, 乳癌, 腎癌の順に術後生存期間が長かった. 手術により除痛効

A-3) 肺がん病名告知

小池 輝明・寺島 雅範 (新潟県立がんセン)
滝沢 恒世・赤松 秀樹 (ター呼吸器外科)
船崎 俊一 (済生会新潟第二病院内科)

がん患者に対する病名告知には種々の問題が含まれており, 本邦では未だ一般的とはいえない. 当科では 1993 年 3 月より入院症例に予め病名告知に関するアンケートを行いこれを参考に病名を告知してきたが, 肺癌症例での“がん”病名告知率は 1993 年 35%, 1994 年 70%, 1995 年 86% であった. 病名告知の是非について行った調査で